

(17)総合評価に関する意見

分類	主な意見の概要	事業者の見解
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新空港建設に伴う周辺土地の緑地整備計画等、環境と調和した空港ができる。 ・自然は生きており、どう変化するか難しい点が多いので、工事中も常に気を付けて自然環境に負荷をかけないようにしてもらいたい。 ・精細な環境調査がなされており、環境保全措置も十分検討されている。 ・希少な野生生物が生息する白保の陸、海一体の自然生態系を保全していくことは不可能です。建設位置の選定をやり直してください。 ・科学的に裏付けられた調査、研究、検討がなされており、自然環境に配慮した建設が可能と考え早期建設を希望する。 ・白保の海を守ることが、私は子や孫に残してやれる唯一石垣島の生き残る道ではないかと思う。 ・このまま事業を進めれば、三度世界から批判を受けることは必然である。観光立国が北半球最大の白保のアオサゴの破壊に手を貸し、観光立国が貴重な観光資源の破壊者となる。 ・予定地に新空港が建設された場合、豊かな海ばかりでなく、陸上の動植物や生態系に多大な悪影響が及ぼされ、取り返しのつかないことになる。 ・多くの貴重種の生息を脅かす現在の計画には保護対策が十分になされているとは思えません。 ・カンムリワシ、コウモリなどの貴重な動物の保全も万全であり安心している。 ・環境影響の回避/低減にかかる評価において、「事業者の実行可能な範囲内で環境影響に与える影響の低減が図られているものと評価した」という記載が多く、形式的であり根拠が不明確である。自然生態系等への影響の程度について明確に示す必要がある。 ・全ての項目において環境の影響は少ない、代替処置により軽減されると評価しているが、その根拠が示されていない。軽減効果の確度と合わせて公表すべき。 ・豊かな自然をそのまま残してください。 ・観光産業を永く続けるためにもこれ以上の自然破壊をやめるべき。 ・環境保全に心置く方々の意見に目を向けてください。白保のサンゴ礁は人々の暮らしを支えている。 ・多少の犠牲は仕方がない。 ・位置選定委員会で出された環境データではカラ岳陸上案の貴重種は63種であったが、沖縄県の調査によって明らかになった貴重種の数は約200である。実際には3倍以上の貴重種が生息していたわけで候補地選定がいかに杜撰であったかを示している。候補地選定からやり直すのが早期建設への近道である。 ・地下水対策、赤土流出対策等、万全を期していると感じた。海域への影響はないものと思う。 ・今後、サンゴの生態系に影響を及ぼす赤土流出等をみんなの考えで乗り切りたい。 ・空港を作る工事中に赤土は、どんどん流れて海はすぐに死ぬ。絶対新空港はやめてほしい。 ・台風の多い石垣でいかに防護策をとったとしても、白保海域が赤土で汚染されるのは防ぎようがない。 ・海域への濁水流入、地下水の変化、淡水の流入等による海域生物、海域生態系への影響の予測・評価をやり直す必要がある。 ・サンゴ礁の海を健全に保つためには赤土流入はいささかも許されないとと思う。 ・海岸ぎりぎりに大土木工事が行われ貴重なサンゴ礁の生態系を保全できない。 ・許容量以上の観光客により、水需要、排水、ゴミ等新たな環境破壊を生み出す。 	<p>事業実施にあたっては、周辺の環境に十分配慮して行います。また、事後調査（環境モニタリング）を行い、本事業によって環境に影響が生じた場合には、必要に応じ適切な対応を講じるなど、本事業の実施が環境に及ぼす影響の評価については、</p> <p>①調査及び予測の結果並びに環境保全措置を検討した場合においてはその結果を踏まえ、対象事業の実施により選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているか、また、</p> <p>②国または関係する地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準または目標が示されている場合には、当該基準または目標と調査及び予測の結果との間に整合が図られているかの観点から検討しました。</p> <p>本事業の実施が、環境に及ぼす影響を予測・評価した結果、各種環境保全措置等を実施することによって、環境影響の低減がなされると考えられます。よって、全体としては、事業実施区域周辺の環境に及ぼす影響の程度は小さいものと判断されました。自然環境との共生に配慮して事業を実施してまいります。</p>